

区長が北海道名寄のアスパラを堪能

10日、杉並区長と北塩原村長は、阿佐谷パールセンターの一角にある飲食店で、グリーンアスパラを使ったメニューを堪能しました。このアスパラは、区の交流自治体である北海道名寄市と「阿佐ヶ谷・荻窪飲み屋さん祭り」のコラボレーション企画として、区内20店舗ほどで提供されているものです。「食」を通じて街をプロモーションするという名寄市のニーズと、特色のある取組みを行いたいという飲食店側のニーズを掛け合わせた新しい取組みです。アスパラの提供にあわせ、名寄市の農産物や区内で開催される物産展のPRを実施しています。杉並区は、国内の交流自治体と連携し、都市と地方の共存共栄を目指しています。地方の特産品の活用も、こうしたWin-Winの関係を深める取組みの一つとなっています。

杉並区と北海道名寄市（旧風連町）は、平成元年7月13日に、「交流自治体協定」を締結しました。区の交流自治体は、名寄市を含め国内に10の自治体が存在し、災害時の相互支援や物産展の開催、小中学生の交流などを積み重ねてきました。こうした実績に基づき、9自治体が参加して設置したのが「地方創生・交流自治体連携フォーラム」です。平成27年7月に第一回フォーラムを北海道名寄市で開催し、少子高齢化の中で生まれる様々な課題を共有し、それぞれの自治体を持つ強みで解決に向けて取り組んでいくことを目的にしています。今年度は、5月12日に静岡県南伊豆町で開催予定です。

過去のフォーラムの議論の中で、交流自治体の特産品を扱うアンテナショップの杉並区内への設置が議題に上がりました。しかし、店舗の開設や運営経費を考えると、維持そのものが難しい面もあり、既存の飲食店で特産品を使ったメニューの提供をすることになりました。昨年は、南伊豆町の猪ソーセージや金目鯛の干物などが、特別メニューとして提供されました。

今回、食材を提供するのは名寄市です。特産品のグリーンアスパラは北海道一の収穫量を誇り、盆地特有の気候の寒暖差と太陽の光をいっぱい浴び、甘くてやわらかいと評判で、区役所で開催する「なよろアスパラまつり」では、買い物客の長い行列ができるほどです。今年、このグリーンアスパラを使った特別メニューが、「阿佐ヶ谷・荻窪飲み屋さん祭り」に合わせ、区内の20店舗ほどに登場しました。



10日午後6時、阿佐ヶ谷駅から南に続く阿佐谷パールセンター商店街の一角にある飲食店「浩太郎丸」を、杉並区の田中良区長と福島県北塩原村の小椋敏一村長が訪ねました。目的は、もちろん名寄市の特産品を使った特別メニューを味わうためです。二人が注文したのは、グリーンアスパラのホイル焼きなどで、その美味しさに自然と笑顔となりました。こうした取組みは、12日のフォーラムでも報告することになっていて、いずれ北塩原村の特産品も登場する可能性があります。